

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①カリキュラム・マネジメントの視点から魅力ある教育課程を編成し、運用・改善する。 ②ICT を利活用しながら、授業改善に組織的に取り組み、基礎学力の定着を図り、思考・判断・表現する力を伸長することで、主体的に活動できる人材を育成する。	①現行のカリキュラムを整理し、教育課程編成方針を作成し、魅力ある教育課程の編成に取り組む。 ②一人一台端末を活用し、さらに授業改善を行い、生徒の基礎学力の定着とともに思考・判断・表現する力の伸長を図る。	①新校の教育課程編成に向けて学校全体で情報交換を密に行い、育てたい生徒像や問題点などを検討しカリキュラム・マネジメントの視点から教育課程編成指針を作成し、魅力ある教育課程の編成に取り組む。 ②生徒の基礎学力の定着と思考・判断・表現する力の伸長を目指し、校内外の授業を多く見学し、一人一台端末の活用や教授法などよい取り組みについて研修等を通じて共有し、授業改善を行う。	①教育課程編成指針を作成し、育てたい生徒像や問題点の解決を念頭に置き、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて、新教育課程表を完成させたか。 ②生徒による授業評価アンケートにおける関係項目について、8割以上の肯定的な回答を得られたか。また、一人一台端末を活用した教授法の研修を通じて授業改善ができたか。	①新校の教育課程について、育てたい生徒像や学校の特色等を検討しカリキュラム・マネジメントの視点から魅力ある教育課程の編成を行った。 ②生徒による授業評価では、年間を通して授業の進め方や活動内容については8割以上の肯定的な回答が得られた。一方で、他校の視察や研修を行ったが、一人一台端末の活用について肯定的な回答は6割だったものが7割ほどに上昇したものの、目標には届かなかった。	①出来上がった新校の教育課程編成の運用等についてさらに検討・改善を重ねていく。 ②研修等を通じて、職員の理解や授業改善が進み、一人一台端末の活用の仕方についてはさらなる検討が必要ではあるが、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、思考・判断・表現する力を伸ばすことができた。引き続き授業改善を行っていきたい。	・新校教育課程の編成等により業務多端の中、基礎学力の定着や思考力・判断力・表現力の育成に向けた組織的な取り組みを評価する。生徒アンケートに基づくリフレクションも定着している。 ・学習指導面では、他校視察や研修を通じたICT活用の検討が進み、電子黒板導入に対して電子黒板導入が高まっている。ICT活用については、教員間で活用状況に差は見られるものの、生徒の興味喚起のための授業改善への意欲を感じた。	①育てたい生徒像や学校の特色等を検討しカリキュラム・マネジメントの視点から教育課程編成した。今後、運用について検討・改善を行う。 ②一人一台端末やICT の活用を進めるとともに基礎学力の定着や思考力・判断力・表現力の育成に向けた組織的に取り組み一定の成果をあげることができた。一人一台端末の活用をさらに推進することが課題である。	①新校に向けて、教育課程の運用について学校全体で継続して検討していく。 ② ICT 活用を進めることはできたが、依然として、教員間での活用状況に差が出ている。継続的に研修等を通じて校内で共有し、学校全体の機運を高め、授業改善を進めていきたい。
2 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会の一員として行動するための規範意識を高める。 ②生徒1人ひとり個に応じた支援の充実を図る。 ③自己理解・他者理解を深め、自他を尊重できる人間関係を築き、コミュニケーション能力を育む。	①生徒指導の基準を示し、継続性をもって、指導や支援をおこなう。 ②支援を必要とする生徒へのSCやSSWとの連携を深め、相談できる環境を整えていく。 ③自主自律の精神のもと、生徒主体の行事運営を行い、他者との違いを理解し自他を尊重できる人間関係を築き、コミュニケーション能力を育む。 ③新校開校に向けて、旭高校の特徴である部活動の活性化を図る。	①職員が共通理解のもと、問題が発生した時には、複数で速やかに対応をおこなう。 ②SCやSSWと教職員の連携を強化し、生徒が相談しやすい環境を整備する。 ③生徒が主体となり、さまざまな視点から行事の企画・運営ができるよう、適切な助言・支援を行う。 ③部活動の加入に向けて周知に努める。	①生徒指導の初期対応の際に、複数の教員で対応することができたか。 ②SCやSSWとの意見交換を通して、支援を必要とする生徒を関係機関につなぐことができたか。 ③学校行事・生徒会活動・ボランティア活動などの生徒活動において、実施後のアンケートで8割以上の生徒が主体的、積極的に取り組み、達成感・満足感を実感できたか。 ③部活動加入率を60%以上にすることができたか。	①生徒の問題行動が発覚した際には、複数の教員で速やかに対応できている。 ②SCやSSWの予約シートを実用的なものにし、振り返りも関係職員に周知できるよう整備した。 ③文化祭アンケートで「クラスや学校のために積極的に活動できたか」に対して9割以上の生徒が「できた」「少しはできた」と回答した。 ③今年度の部活動加入率は59%であった。目標には及ばなかったが、昨年度よりは増加した。	①複数の教員が初期対応する際に、対応できる場所を確保する必要がある。 ②支援を必要とする生徒を、保護者の理解を得ながら、つなげていく。 ③多くの生徒が積極的に取り組み、達成感・満足感を得られたが、生徒主体の活動については課題がある。更なる活性化に向けて支援を行う。 ③新入生に向けて部活動体験を新たに実施したが、より多くの生徒が参加できるよう改善を検討する。	・生徒支援では、部活動加入率向上施策が校内の活性化に寄与していると感じられた。 ・生徒指導面では、県内自転車事故ワースト2という結果は極めて遺憾である。重大事故防止に向けた交通ルール遵守の徹底をお願いしたい。	①生徒指導の基準に沿って、職員全体で継続的に指導することができた。 ②支援を必要とする生徒に、個に応じた支援をおこなうことができた。 ③行事については多くの生徒が積極的に取り組むことができた。生徒主体の活動については更なる活性化が必要である。 ③新たな取り組みを行ったことにより、微増ではあるが部活動加入率を増加することができた。次年度は70%を目指し取り組んでいく。	①R8.4.1からの道路交通法一部改正をうけ、自転車マナールールを遵守し、事故防止に向けて指導していく。 ③既存のことにとらわれず、新たなアイデアなどを生徒が考えることのできるようサポートしていく。
3 進路指導・支援	①10年後 (AGE28) の自分をイメージしたキャリア形成ができるように、3年間を通じたキャリア教育実践計画に基づき、キャリアデザイン能力を身につけさせる。	①生徒が主体的にキャリアを開拓していこうとする姿勢を養い、希望する進路の実現に向けて組織的に取り組む。 ②総合的な探究の時間において、自己理解やキャリア観を深め、将来設計や進路選択に役立つ知識やスキルを身につけさせることをめざす。	①職員研修を3回以上実施し、大学等の説明会に積極的な参加を促す。 ①外部模試を2回以上実施し、生徒への事前事後指導を計画的に実施し、生徒の自己分析力を育成する。 ②総合的な探究の時間について社会資源を活用しながら、3年間、見通しのある計画を立案	①研修の実施回数と参加者数が増加し、生徒への情報提供が十分に行えたか。 ①計画的な模試の実施と指導を通して、生徒の自己分析力を育成できたか。 ②各学年、総合的な探究の時間について、社会資源を活用しながら実施ができ、有意義な学習活動とすることができたか。	①研修の実施回数と参加者数の増加については、目標を達成することができた。職員への情報提供は行えた。 ①外部模試は2回以上実施することはできた。事前事後指導についても、生徒に情報として還元することはできた。 ②総合的な探究の時間で社会資源の活用は、	①職員研修の内容は、情報提供に加えて、具体的な生徒への指導方法やキャリア支援の取り組みについて精選していく必要がある。 ①外部模試結果を資料とし系統的に自己分析できる仕組みを創っていく。 ②学校全体としての総合的な探究の時間の	・探究学習を含む授業の充実を通じて、進路指導では、指定校推薦で「行ける大学」を選択するのではなく、「学びたいことができる大学」を目指す意欲を喚起されたい。	①教員研修や外部模試を計画的に実施し、生徒への情報還元を確実にすることができた。今後は研修内容が情報提供に留まらず、具体的な指導方法や支援の取組を精選する必要がある。また、模試結果を生徒が系統的に自己分析できる仕組みが十分に構築でき	①教員研修の内容を精選し、指導・支援の高度化を図る。 ②自己分析を促す仕組みを構築する。生徒が自らの状況を客観的に把握し、主体的な進路選択に繋がられる体制に向けて、新たなプログラムを運用する。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
				し、実施する。		大学や企業のプログラムを活用することはできた。	到達目標と手立てについて、実践例等を参考にしながら、引き続き検討する。		ていない。 ②総合的な探究の時間における到達目標と具体的な手立てについて、本校のニーズに基づき質を向上させることが急務である。	③総合的な探究の時間を再構築し、3年間を見通した計画を確立する。進路実現に向けた組織的な支援体制を強化していく。
4	地域等との協働	①学校と地域の連携協働の「現状と課題」を把握し、改善を意識した学校運営協議会を運営する。 ②学校と地域の連携協働の促進により地域とともにある開かれた学校づくりを進め、地域の中で生徒の主体的な取組を支援する。	①学校運営協議会と各部署の連携をより強化するため、情報共有や意見交換を密に行い、様々な取組の情報発信をさらに充実させる。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組を推進し、さらなる地域交流をめざす。	①学校運営協議会の意見や提言を活かす取組ができるよう、各部署との連携を図る。また「あさひだより」で学校の情報を地域に広報する。 ②今までの交流を継続しながら、「スクールフェスティバル」など新たな地域交流について周知する。	①各部署と連携し、学校運営に生かす具体的方策について集約し、実現できたか。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組を推進し、ピリブやスクールフェスティバルなど充実した地域交流ができたか。	①学校運営協議会の意見や提言を活かす取組ができるように各部署との連携強化を目指した。「旭だより」をより広く発信するためHPにも公開した。 ②10月に地域貢献デーを設定し、1年生生徒が地域清掃を行った。また、新たに12月にスクールフェスティバルに参加することとなった。	①各部署との連携をより強化するため、情報共有や意見交換を密に行い、様々な取組の情報発信を更に充実させていく。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組を推進し、更なる地域交流を目指す。今までの交流を継続しつつ、新たな地域貢献活動や地域交流を模索していきたい。	・地域連携については、学校と地域双方が課題を共有し、持続可能な「win-win」の関係を構築することで継続的な取り組みがなされることを期待する。	①昨年度の学校運営協議会でいただいたご意見を参考にし、より充実した情報発信を行うことができた。各部署との連携強化においては、改善の余地がある。 ②部活動を中心とした連携はこのまま続け発展させていきたい。一般生徒のボランティア活動を増やしていく方法を模索していきたい。	①学校運営協議会の意見や提言を活かす取組ができるように、各部署との連携を強化し、具体的な改善方法を示し、実現していく。 ②地域連携をより強化し、多くの生徒が気軽に参加できる方法を工夫していく。
5	学校管理 学校運営	①ICTを活用した様々な活動を支援するための教育環境を整備する。また、ICT利活用により業務の効率化を図り、働き方改革を実践する。 ②地域への情報発信を迅速に行い、開かれた学校づくりを推進する。	①さらなる学習環境整備のため機器間接続状況の点検、改善はもとより、学校周辺も含めた環境改善に努める。それによりストレスの少ない学校づくり、ストレスの少ない職場づくりをめざす。 ①働き方改革として、ノー残業デーを設ける。 ②学校説明会やホームページ等さまざまなメディアを活用し、学校生活の様子を発信する。 ③開かれた学校づくりを推進するため、事故不祥事を学校から出さないように環境を整備する。 ④再編・統合を進めるため、設置計画案を作成し、令和9年度開校に向けて諸準備を進める。	①昨年度の段階で機器トラブルのあった端末の利用状況、動作状況を定期的に確認し、細やかに対応する。 ①大規模な校外清掃である「クリーンアップ作戦」についてPTAと生徒の参加ボランティアの数を増やす。 ①朝の打合せ等でノー残業デーを周知するとともに業務アシスタントを活用するなど時間対効果を意識させる。 ②生徒主体の学校説明会の充実を図り、旭高校の魅力特色を中学生や保護者に伝える。ホームページの充実を図るため、各部署の担当への連絡を密にする。 ②不祥事防止について、自分事として捉えられる研修を実施する。 ②令和8年度末までに行う準備を計画し、実施する。	①接続等のトラブルが発生した場合に速やかに対応し、業務や授業への影響を最小限にとどめることができたか。 ①「クリーンアップ」作戦の参加者が昨年度の79名より多くなったか。清掃箇所を昨年度より広範囲にすることができたか。 ①月の時間外在校時間45時間超の教員の割合を15%以下にできたか。また、月の時間外在校時間80時間超の教員の割合を2%以下にできたか。 ②学校説明会の「学校紹介・教育課程について」などのアンケートで90%以上の肯定的回答が得られたか。 ②ホームページの更新が適切な頻度と速さで行われたか。 ②不祥事防止研修を10回以上実施し、自分事として捉えられる内容の研修を実施できたか。 ②ハード面、ソフト面の準備を滞りなく進められたか。	①接続トラブルが多かった機種を随時、新機種に変更することで状況は改善されている。 ①11月実施の「クリーンアップ」作戦では昨年度の参加者を超える86名の参加があり、より広範囲の清掃を行うことができた。 ①1月までの月の時間外在校時間45時間超の教員の割合は18.5%であった。また、80時間超の教員の割合は3.7%だった。 ②生徒主体の学校説明会が実施できた。 ②ホームページを迅速に更新し、部活動や修学旅行など多くの情報発信を行った。また、動画の配信も開始できた。 ②不祥事防止研修を4月から毎月実施している。また、グループ協議を取り入れることで、自分事として捉えられる内容の研修を実施できた。 ②環境整備計画、教育課程の編成、制服業者選定など諸準備を進めた。	①根本原因が判明していない状況は継続しているため、トラブル機種と同機種の端末は原則的に交換していくこととする。 ①清掃により発見された不法投棄物や危険物の処理への備えを確認しておく必要があると思われる。 ①目標値に近づくよう、より一層業務の効率化を図っていきたい。 ②第一回学校説明会や第二回学校見学デーのアンケートで95%以上の肯定的回答が得られた。中学生の興味関心を調査しながら、今後も満足度の高い学校説明会を実施していきたい。 ②ホームページの情報の整理などにまだ課題があるため、より分かりやすいホームページ作りを推進していく。 ②引き続き研修を実施し、不祥事ゼロをめざしていく。 ②年間行事等の検討を行い、さらに諸準備を進めていく。	・今年度は川井地区連合会への高校の参加率が減少したため、連携が薄くなってしまった印象がある。学校便りに触れる機会が昨年度より少なかったため、紙での配付かインターネット上での配信か、地域への発信方法を検討してほしい。 ・今後も生徒主体の学校説明会を継続し、生徒を通じてリアルな情報を伝えてほしい。 ・新校準備に向けた校内調整も着々と進んでおり、魅力と特色ある新校の誕生が楽しみである。	①電子黒板のHR教室への導入など、物的な整備は進んでいるが、それをフォローするネット環境の整備が伴っていない。 ①生徒にとっての学校への玄関である昇降口および学校と地域を繋ぐ外周道路の大規模清掃を充実させることができた。 ①時間外在校時間の縮減を図る必要がある。 ②生徒主体の学校説明会等を実施し、多くの中学生、保護者から好評を得た。しかし、7月開催は参加人数が昨年よりも少なかったため、実施時期の検討も行いたい。 ②今年度も不祥事ゼロを達成することができた。引き続き、自分事として捉えられるよう研修内容を工夫していきたい。 ②完成した設置計画に基づき、さらに細かい具体を詰めていく必要がある。	①学校現場のアクションだけでは改善できない課題もあり県教委への要求、働きかけには具体を伴うような説得力のある対応が必要である。 ①次年度は「クリーンアップ」事業の広報、周知をより効果的に行い、参加人数増を目指す。 ①業務負担の見直しやグループ再編を通して、働き方改革を進める。 ②新校の情報と魅力を伝えるため、学校説明会の充実を図る。動画配信等の宣伝媒体も工夫したい。 ②不祥事防止のため、より充実した研修を実施していく。 ②令和9年度開校に向けて最後の一年となるため、関係各所と連携し、諸準備を進めるとともに広報活動に注力する。

